

# 暇を役立てて人生楽しもう

## 年をとっても夢失わず

豊橋で宗田氏の講演会  
シルバー

年をとっても楽しく生きる方法を教えます。豊橋ふるさと大使で

作家・宗田理氏(78) 名古屋市長在任の第1回目のシルバー講演会が19日夕、豊橋市大山町の豊橋ハートセンター(鈴木孝彦院長)で開かれた。

同氏は一昨年、ヤング主婦を対象に子育て塾を開設。悩み多き母親たちのためにとボランティアで活動した。昨年も継続する予定だったが、3月に心臓疾患で同センターに通院。現在は回復し月1度の通院なので、受診日を利用して同センターホールで初のシルバー向き講演会をスタートさせた。

宗田さんは、暇つぶしのうまい人は人生の達人だ」と強調。昔の人々は暇がなく忙しい生活だった。今は便利な時代で、特に主婦は楽になり暇もできた。「暇」は役に立

たない時間と思われているが、言葉の真意は役に立つ時間のことだ」と。「学校をスクールというが、その語源はギリシヤ語で暇を意味するスコール。時間が有り働かな

くてもいい人が学校で勉強したことだから、そう呼ばれるようになったという。だから暇は役に立てなければいけないのだ」と力説した。

そして、暇を役立てて人生を楽しむ方法を提起。「常に好奇心を持つこと。自分がしたいことを探すこと。夢を失わないこと」を挙げた。また、10余年

前に書いたユニークな著書の内容を紹介。わが子に見捨てられ一人暮らしの老婆が、宝くじで1億円当たったと子らに知らせる。

長生きしたくないので、楽に死ぬる方法を考えよ。1番いい方法を考えた者に1億円を与える」と。子どもらは驚いて老婆のもとを訪れ、機嫌を取る。孤独だった老婆はたちまちにぎやかな生活に。やがて老婆はガンで死去。子どもらが金庫を開けたところ、入っていたのは「ありがとう」の紙切れだった」という物語。

「子どもに捨てられた寂しいなどと嘆くよりも、知恵を使って子どもを懲らしめるプラス思考が大切。金はなくても頭を使えば人生は楽しい」とシルバーたちを激励。大きな共感を呼んだ。

次回は2月9日午後1時半から行われる。この日は、地元で活躍する元プロ落語家・鶴橋滅滅渡さん、本名・今村敬、豊橋落語天狗連所属の講座もある。



大勢の人々が共感を呼んだ講演会  
＝豊橋ハートセンターで

今回のテーマは「ひまつぶしについて」。最初に鈴木院長が「老人という言葉は尊敬語。昔は老中、大老など若くても実力者がその地位に就いた。皆さんも暇を上手に活用し、社会の大老になって」とあいさつ。